2021.2.1.

災害に強いまちづくり（講演会）

1．日時：2021 年 1 月 30 日（土）13 時～15 時（生涯学習センター）

2．講師：天野和彦氏（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任教授）

2011 年 3 月 11 日東日本大震災、東京電力福島第一原発事故に際し、福島で最大の避難

所での県庁運営支援センター責任者として携わり、その後、日本各地での避難所運営、

被災者の生活再建等の活動・支援・講演等を行っている。

3．主な講演内容「災害に強いまちづくり」⇒知識、気づき、人造り

（1）災害には、自然現象としての災害（ハザード）と社会現象としての災害（ディザスター）

がある。自然現象の全てを見越した対策は出来ないが、「災害に強いまち」は作れる。

（2）災害に強いまち

・ふだん準備している以上のことは絶対に出来ない⇒災害に強い街づくりは準備が絶対必要

・それまでの地域課題が顕在化する⇒例として、住民同士の意思疎通、近隣自治会との意思疎通が欠けているといざという時に顕在化する。地域の課題を真摯に受けとめて改善努力する

・人と人が繋がっているまちづくり⇒防災まちづくり（もの）だけでは、住民を守れない

⇒住民間のつながりが深い地域ほど災害に強い

（３）大災害の時、市役所は優先的にやることが多くあるので、避難所の運営まで手は回わらない。避難所運営は各地域で行う。

（４）新型コロナウイルスは災害である。政府は感染対策と経済対策に重点を置いているが、これだけではだめ。あらゆる社会システムが崩壊の危機にあり、この対策も重要である。

（５）今後予想される災害時の避難者数：東日本大震災約 50 万人、熊本地震躍 18 万人、首都直下地震約 700 万人

（６）自治体の災害対応を振り返ると、立派な地域防災計画やマニュルがあるから大丈夫と思っていたが、殆ど役に立たなかったということが多い。

従来型の事前計画やマニュアルは役に立たない。マニュアルを見直し修正が必要。

（７）モノの防災から考え方の防災へ⇒モノさえあれば命が守れると考えるのは間違いである。

モノは駄目だということではなく、土台となる考え方がしっかり持って対策を構築することが必要である。

（８）「災害を人権という視点で捉えなおす」⇒避難所は人権のかたまりである⇒想像力（イマジネーション）を豊かにして、相手の立場に立って考えなおすことである。

（９）いろんな避難所を訪問したが、避難者から発せられた共通した言葉は「何故、私達だけがこんな災害に合わなければならないのか」であった。普段は当たり前と思っていることが、

立場を変えれば見方が全く変わるということである。

（10）避難所は、空気が悪い、プライバシーがない、感染病がある、不快な匂い⇒早く仮設に移りたい⇒仮説に入った後に発生した問題＝孤独死⇒もう一度避難所に戻りたいという人もいた⇒仮設住宅に移ると１日中誰とも話せず孤独⇒当たり前の事が原因であった⇒どうするか⇒「独りぼっちにしない」⇒「**人を救うのは人しかいない**」ということである

（11）阪神淡路地震、中越地震で，なぜ仮設住宅で多くの孤独死が発生したか、そこから何を学んだか⇒「交流の場の提供」と「自治活動の促進」⇒効果的事例「サロン」と「足湯」「女性専用のスペース」「畑しごと隊」「「おたがいさまＦＭ」

（12）イタリアでの災害対策実例：災害時の真っ先に届くもの①広くて、きれいなトイレ　②キッチンカー（１時間に 1000 食）　③特大テントとベッド⇒これらは公的機関からではなくボランティア組織からである

（13）地域（避難所）におけるコミュニティ形成

①「交流」の場提供　と「自治」活動の促進　横軸にして

②「生命を守る」活動　と　「生きがいと居場所つくり」の活動　を縦軸にして

③　住民間のつながる力

④コミュニティ意識の醸成　（人と人がつながる仕組みを）

（14）生命を守るためには、「誰が」「どこで」「何かして」「どんな事が起こるか」という情報を

共有化していないと問題が発生するが、役人は個人情報保護をかざすが、人の命と天秤をかけることなど何もない。(人命が危険に晒された時は、それに優先することは何もない)

(15) 市民活動を高めること＝地域力の高まり⇒「地域の総合力」が「持続可能な社会」を実現させる⇒そのためにはどうするか⇒①地域（宮園）を足元から見つめなおす　②地域（宮園）を深く知る　③宮園に新たな仕組みを考える

(16) イコールパートナーシップ⇒立場は違っても、地域をよくしたいという「同じ目的を持つ者同志が、対等に意見交換して、行動を共にする」

(17) 自治会は、なぜ必要か

①自治会加入のメリットは、個人に対して直接的に何か得をするといった意味でのメリットではない。

②地域に根ざして生活し、自らの地域を住みよい（安心で安全で住みよい）地域にするという意味において大きなメリットがある。

(18) 自治会活動を円滑にかつ継続的に進めて行くために大切なこと

①地域の人達がお互いに話し合うこと

②交流してゆくことができる場を設ける

③民主的な会の運営にこころがけて行くこと

(19) 私たち自身が問われていること⇒それは「地域でどう生きるか」⇒つまり「生きがいと死にがい」⇒宮園で骨をうずめて、次の世代にバトンタッチして行く

（報告：樫木洋一）